

# 岡山市の 小さな自然再生

龍泉寺の自然を守る会  
10年の歩み

2版

龍泉寺の自然を守る会 編・著

サンプル23頁

世代を継がないで残そう自然遺産



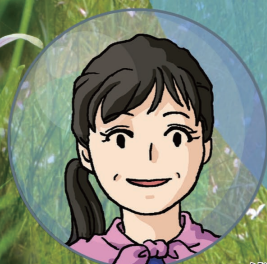
80代



70代



60代



40代



50代



しげき



はるみ

# Credit

## 監 修

(湿地・野草・樹木) 片岡博行 (かたおか ひろゆき)

重井薬用植物園 園長、日本生態学会会員、日本湿地学会会員など  
岡山県野生生物調査検討会委員、倉敷市生物多様性審議会委員など

(トンボ) 守安 敦 (もりやす つとむ)

日本トンボ学会会員  
岡山県野生生物調査検討会委員、倉敷昆虫同好会幹事

(チョウ) 岡野貴司 (おかの たかし)

日本鱗翅学会会員  
岡山昆虫談話会会員、倉敷昆虫同好会会員

(両生類・爬虫類) 山田 勝 (やまだ まさる)

岡山県野生生物調査検討会委員、岡山県自然保護センター友の会幹事

(樹 木) 可兒義朗 (かに よしろう) 福島重忠 (ふくしま しげた)

森林インストラクター

## 執 筆

Chapter 1～4 (湿地の再生・特徴と生物多様性・保全・賛同者) 田中和明

Chapter 5 (野草) 村上 昇

Chapter 6 (トンボ) 竹腰澄子 (ハッチョウトンボ) 山口幸男

Chapter 7 (チョウ) 竹腰澄子

Chapter 8 (その他の昆虫) 村上 昇

Chapter 9 (野鳥) 山口幸男 (その他の動物) 田中和明

Chapter 10 (樹木) 村上 昇

Chapter 11 (年表) 田中和明

(寄 稿) 山田瑞希 片岡博行 脇本 浩 守安 敦 岡野貴司 可兒義朗  
阪本昌護 阪本保美 田中和明 井上節子 中田淳也  
藤井盛康 小林弘子

(私の一枚) 緋田早智子 竹腰澄子 山口幸男 村上 昇

写 真 山口幸男 竹腰澄子 村上 昇 小林弘子 加藤喜明 田中和明

イラスト・表紙 糸宇睦月

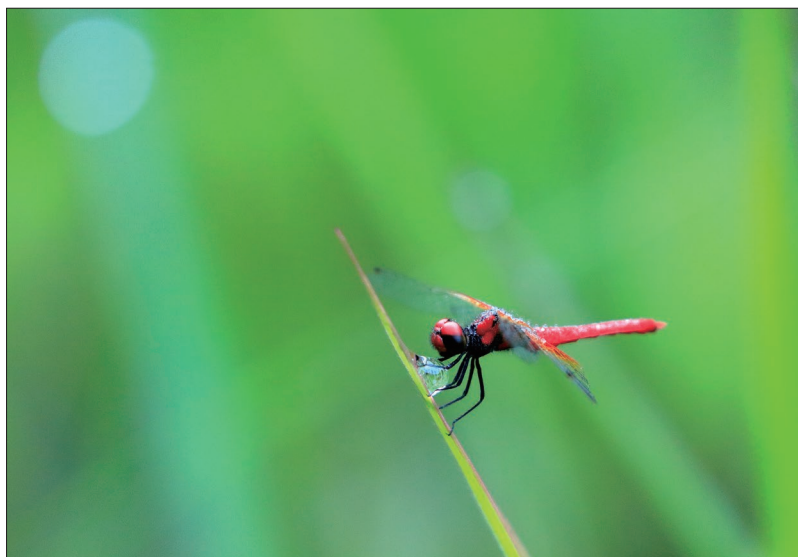
編集・DTP 田中和明

編集委員会 ◎田中和明 伊丹和正 井上節子 竹腰澄子 山口幸男 村上 昇  
小林弘子

この電子書籍制作は「岡山 ESD プロジェクト参加事業」です。

# 龍泉寺の湿地の再生

1. プロローグ
2. 湿地の再生
3. 見に来られる方への環境整備



## 私の一枚

私は、ハッチョウトンボを2010年から撮影してきました。撮影目的は、写真展又はコンテスト作品としての撮影でした。撮影場所は総社市のヒイゴ池湿地と岡山県自然保護センターでしたが、トンボが年々少なくなりました。

カメラ仲間から、龍泉寺にハッチョウトンボがいることを聞き、2014年から龍泉寺に行くようになりました。他の場所では、羽化を見ることができませんでしたが、羽化の撮影もできて、夜露に濡れたトンボなど貴重な写真が撮影できました。

山口幸男

# 1. プロローグ

「龍泉寺の湿地の保護活動」は、元岡山県立高松農業高等学校教諭 藤原誠一先生（当時 82 歳、故人）が半田山植物園で開かれていた写真展を見たことに始まりました。藤原先生が書き残された資料と加藤喜明前会長（故人）から生前お聞きした話から、「龍泉寺の自然を守る会」が発足するまでの活動を紹介します。

## 半田山植物園の写真展

藤原先生は、2007 年 10 月に岡山市半田山植物園で開催されていた「須藤順一写真展 龍泉寺のトンボたち」を見て、岡山市内に美しい自然が残っていることに感銘しました。先生は、毎年のように龍泉寺の「お滝祭り」のビデオ撮影に行っていました。先生が豊かな自然が残っていることを知りませんでした。

直ちに龍泉寺に行き、以前から面識のあった龍泉寺の奥さんに「龍泉寺にトンボやサギソウがあるのか」確認しました。その時の先生の気持ちは、山陽新聞の読者欄「ちまた」の投稿に表れています。

## 岡山県立高松農業高等学校の同窓会での話が

加藤喜明（当時 67 歳）さんは高松農業高等学校の卒業 50 年の同窓会に出席し、同窓会の近況報告で「山野の草花を観察し、カメラで撮影することを趣味としている」

岡山市内の自然を守っていききたい

藤原誠一 82（岡山市）

今月初め、岡山市法界院にある半田山植物園で開かれていた「須藤順一写真展 龍泉寺のトンボたち」を見に行つて、岡山市下足守の龍泉寺にこんなにかくさんの種類のトンボがいることを知り、びっくりしました。

写真展に展示してある写真は二十枚。絶滅危惧種に指定されているキイロトンボ、体長一八ミリのハッチョウトンボ、それにチョウと同じ格好をした珍しいチョウトンボなどが、どのトンボも一、二匹だけ大きく撮影してあり昆虫図鑑で見るとよりよく分かりました。

須藤さんは三年がかりで撮影したそうですが、見事な腕前と感服しました。それにしても普段の研鑽と望遠レンズなどの準備、そして撮影は根気と忍耐のたまものと拝見しました。

今、地球温暖化とか環境破壊が心配されていますが、トンボの存在はそのバロメータでもあります。この写真展を見て、岡山市内にもまだまだ美しい自然が残っていると意を強くし、これからも環境保全に努めていきたいと思います。

（原文）

山陽新聞「ちまた」2007年10月13日

# 湿地の特徴と生物多様性

1. 湿地の生い立ち
2. 湿地の特徴
3. 生物多様性
4. レッドリスト
5. 龍泉寺の自然と生物多様性
6. 岡山市の生物多様性ホットスポット



## 私の一枚

チョウトンボをビデオ撮影している人を入れて、一面に咲くスイレンの花を撮りました。池をおおう葉の緑と白い花のコントラストは絵になります。

この池にはジュンサイが自生する池でした。繁殖力が強いスイレンがジュンサイを追いやってしまいました。

昔を知る人には、ジュンサイを懐古させる写真です。

緋田早智子

玉王一乗寺があります。龍王山の大部分の土地は、三つのお寺の所有地でした。そのため、龍王山は開発されないで、自然が残ってきました。

## 2. 湿地の特徴

### 龍泉寺の湿地

龍泉寺の敷地内に、再生した湿地が5か所あります。湿地の配置図と面積を参照してください。



	面積 m <sup>2</sup>
こい岩湿地	1,500
上こい岩湿地	300
サギソウ湿地	700
もみじ谷湿地	800
トンボ池湿地 (池を含む)	2,800
<b>湿地の面積</b>	

これらの湿地のうち、重点的に管理しているのは「こい岩湿地」と「サギソウ湿地」です。

### こい岩湿地・サギソウ湿地の集水域

降り注いだ雨水の一部が、土にしみこんで地下水になり、長い時間をかけて再び湧き水となって地表に現れます。湿地が形成される上で、集水域の広さ・土質・植生が湧水の量・水質に影響を与えます。

こい岩湿地がある谷の長さは約320m、湿地へ流入する集水域は約4.5㍍、サギソウ湿地の集水域は約1.9㍍と試算しています。

集水域の土質は花崗岩と花崗岩が風化した“まさ土”、植生は1975年頃に植林



こい岩湿地・サギソウ湿地の集水域 (写真5)

されたヒノキです。流入する集水域は広くはありませんが、夏の渇水期でも、湿地が乾ききることはありませんでした。

## こい岩湿地

龍泉寺の湿地の中で、最も面積が広く、多様かつ良好な湿原植生が発達しています。龍王池は正徳三年（1713年）に、足守の大庄屋であった難波助兵衛が農業用ため池として整備しました。工事前の龍王池は、池や沼が多数点在する集合体だったと伝えられています。



こい岩湿地 (写真6)



こい岩湿地・堤・龍王池 (写真7)

こい岩湿地と龍王池の間に、谷側からの土砂が池に流れ込むことを防ぐために、低い堤が造られています。谷奥の湧水に始まる谷側からの土砂や粘土が、堤でせき止められ堆積してできた谷底<sup>こくてい</sup>型の湧水湿地です。谷の中央部は深く、2 m以上の土砂が堆積しています。湿地の北側の中央部は浸み水が出ていて、モセンゴケやイトヌノハナヒゲなど貧栄養な環境

を好む植物が自生し、ハッチョウトンボが成育するエリアになっています。湿地内のエリアによって、湿潤度、貧栄養度が異なることが、多様な湿原植生をつくりだしています。

湿地を代表する植物は、モウセンゴケ・ヒメミクリ・トキソウ、サギソウ・アギナシ・ミズトンボです。他にノハナショウブ・カキラン・ヌマトラノオ・サワギキョウ・サワヒヨドリ・キセルアザミ・ヒメオトギリ・スイラン・ミミカキグサ・ホザキノミミカキグサ・ゴウソウ・オニスゲ・タチスゲ・カモノハシ・アブラガヤ・コマツカサススキ・チゴザサ・シロイヌノヒゲ・コイヌノハナヒゲ・イトヌノハナヒゲなどが自生しています。

# 龍泉寺の湿地の保全

1. 湿地の保全
2. 施設の保全
3. こい岩湿地の保全
  - 3.1. こい岩湿地の植生遷移しよくせいせんい
  - 3.2. 2016年のこい岩湿地
  - 3.3. トキソウの勢力推移
  - 3.4. 水質調査
  - 3.5. 湿地保全のノウハウ
4. ハッチョウトンボの保護
5. 湿地に生息する水辺の生き物調査

## 龍泉寺の自然を守る会によせて

私が小学生の頃、今から65年ほど前には細い道を歩いて龍泉寺まで遊びに行き、よく松茸をひいたのが夢のようです。今では、龍泉寺への道路ができ、すぐに車で行けます。便利さ故に、「龍泉寺の自然」が壊される。皮肉なことで大変残念です。

子供の時の体験が縁で「龍泉寺の自然を守る会」に席をおいています。昆虫、植物に特別くわしいわけでもありませんが「自然を守る」気持ちは一歩ありまます。年間行事の中で、何か役にたつことはないか、手伝えることはないか、そんな気持ちで参加しています。自然を求めて遊びに来られる人、湿地帯に咲く自然の花を見てカメラのシャッターをきり喜ばれる人、そんな笑顔がうれしいのです。このように「龍泉寺の自然を守る会」の手伝いをしながら今では「園芸用サギ草」を育て、親戚や友人に鉢に植えて配っています。サギ草が咲いたら、あちらこちらから電話がかかかります。なんともいえない良い気持ちになります。

副会長 中田淳也





「希少植物を後世に残したい」との情熱だけで始めた素人集団でしたが、節目節目で専門家のアドバイスを受けて、試行錯誤で保全活動を行ってきました。紆余曲折はありましたが、湿地は継続して良好な状態を維持しています。10年間の龍泉寺の湿地の保全活動を振り返って、経験したこと、調べたこと、専門家から教わったことを整理して掲載しています。これから「小さな自然再生」に取り組まれる方の参考になれば幸いです

## 1. 湿地の保全

### 冬の草刈りと搬出

湿地の保全には貧栄養状態を維持することが重要です。そのために植物が休眠状態の冬に行う草刈りと刈り取った枯れ草を湿地の外に搬出することが、最も大切な保全作業です。搬出した枯れ草は、数年かけて堆肥にして有効活用しています。



草刈り作業（こい岩湿地）



枯れ草の搬出（こい岩湿地）



搬出された枯れ草（こい岩湿地）

草刈りと搬出は2013年度までは1月中旬に行っていましたが、湿地は凍結し作業が困難なため、2014年度から11月中旬～12月に変更しました。草刈の時期を変更した事により、湿地で最後に咲くリンドウは、種子がまだ完熟していないので、リンドウが生育するエリアは刈らないで残し、3月に刈り取っています。

活動に必要な草刈り機など全てを個人所有の機材に頼っていました。セブン-イレブン記念財団の「2013年度公募助成」に応募し、約28万円の助成金を受け、草刈り機など保全活動に必要な備品の購入や植生遷移対策しよくせいぜんいの費用に充当しました。

### 観察通路の草刈り

観察通路の草刈りは、①トキソウ観察会やハッコウトンボ観察会の前の5月上旬、②サギソウ観察会の前の8月上旬、③紅葉シーズンの前の11月上旬、年3回実施しています。草刈りをして歩く道をきれいにしておけば、毒ヘビに出くわす機会が少なくなります。

# 賛同者を増やす活動

## 1. 絶滅危惧種の個体数減少要因

## 2. 賛同者を増やす活動

## 3. 広報・啓発活動

### 自然と私

龍泉寺の広大な敷地にある湿原の保護活動に参加するようになって、もう7年になります。

田園風景の自然豊かな環境にありながら、子育て中心の生活から余裕ができると、習い事や旅行、友人との食事会と自分の楽しみ中心の生活にいつしかなっていきました。

この書籍を作るに当たって、龍泉寺のみならず、蛩が多数生息する地元、自然と心のありよう、孫世代のことも考えるようになってきました。小さな生き物、草花に目を向けると人や物を大切に思う心が育まれ、幼児期から自然に触れていると、小さな学びから、世界、地球、宇宙へと広がっていき、更に大きな目で見る力と応用力へと発展していくのではないか、又、懐かしいほっこりした風景が一つでも心にあると将来の励みになるのではないかと思うように

なりました。

今夏、野菜嫌いの孫の為、庭のな  
い我が家では鉢に  
2本のキユウリを  
植えました。ばあばの家に来る度に  
花から実になる様を見て喜んでいま  
した。別の孫は鉢植えのブルーベリー  
の実をとって食べるのが楽しみです。

自然の保護活動に共に参加したり、活動から得た知識で道端の花の説明をしてやる時もあります。庭がなくとも保護活動を通じて、孫や家族との色んな語りができます。

電子書籍作成に関しては、いきものや植物に専門的な知識のない私は文の校正の役割ですが、皆様と勉強をさせて頂いたことが大きな財産になっています。会員の皆様に感謝しています。



# 1. 絶滅危惧種の個体数減少要因

環境省が設置した専門会議の報告書<sup>1</sup>によれば、植物（維管束植物）の絶滅危惧種の個体数減少要因は、①開発 43.2%、②遷移進行 22.2%、③捕獲・採集 20.3%、④過剰利用等 8.4% と続きます。

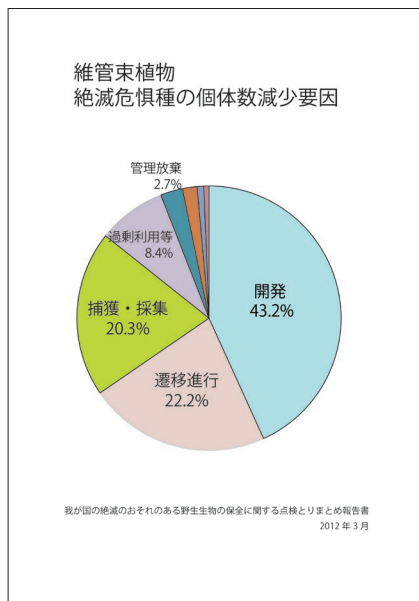
植物の絶滅危惧種の個体数減少要因の第1位は、開発によって生育地が消失したことで43.2%を占めます。第2位は、植生遷移により生育できる環境でなくなったことが22.2%で、第3位は、捕獲・採種が20.3%を占めます。これは、商用目的や鑑賞目的による乱獲や盗掘です。第4位の過剰利用は、エコツアーリングなどの観光客が集まりすぎて生育地が踏み固められて生育できなくなるのが原因で減少しています。

「開発」では、高度成長時代に空港、高速道、新幹線、団地などの造成で生育地が失われました。開発が一段落した現在は、生育地へのメガソーラーの設置が問題化しています。

龍泉寺の自然を守る会にとって、課題は、第2位の遷移進行、第3位の捕獲・採種、第4位過剰利用です。

第2位の遷移進行への対策は、私どもの湧水湿地の保全活動そのものです。植生遷移抑制への取組みは「Chapter3 湿地の保全」で詳しく記述しています。

第3位の捕獲・採種は直近の課題になっています。今まで確認された盗掘は、サギソウ・トキソウ・カキラン・イヌセンブリ・キキョウ・ネジバナです。盗掘を恐れて龍泉寺に生育していることを公表しない方策もありますが、盗掘する人はどこに何が生育しているかは大体見当がつくようです。私どもは、トキソウやサギソウなど観察会を開いて積極的に公表し、多くの人の目で盗掘を防止する方針をとっています。観察会などでは、自然保護の大切さ、絶滅危惧種の個体数減少要因、盗掘への警告などを説明し、自然保護への賛同者を増やす活動をしています。



1 「我が国の絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する点検とりまとめ報告書（2012年3月）」、我が国の絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する点検会議（環境省）

## 龍泉寺の野草

龍泉寺の開花時期

青字は湿地の植物

セリバオウレン 86	3月	ヒメシロネ 114	7～9月
ショウジョウバカマ 87	4月	アギナシ 115	8月
セキショウ 88	4～6月	イヌノヒゲ 116	8～9月
マツバスケ 89	4～5月	アキノタムラソウ 117	7～11月
オニスゲ 90	5～7月	イヌノハナヒゲ 118	8～9月
カサスケ 91	5～6月	コイヌノハナヒゲ 119	8～10月
ゴウソ 92	5～6月	イヌシカクイ 119	7～9月
タチスゲ 93	5～6月	イヌタヌキモ 120	8～9月
トキソウ 74	5月	オミナエシ 121	8～10月
ニガナ 94	5～7月	コマツカサススキ 122	8～10月
ヒメハギ 95	5月	サギソウ 76	8月
ミヤコグサ 96	5～6月	サワギキョウ 123	8～10月
ノヤマトンボ 97	6～7月	サウトウガラシ 124	8～9月
オカトラノオ 98	6～7月	サワヒヨドリ 125	8～10月
カキラン 99	6月	ツルリンドウ 126	8～10月
コバノトンボソウ 100	6～7月	ヒヨドリバナ (広義) 127	8～10月
ジュンサイ 101	6～7月	マコモ 128	8～10月
チゴザサ 102	6～8月	ミズトンボ 129	8～9月
ネジバナ 103	6～8月	ミミカキグサ 82	8～10月
ノハナショウブ 104	6月	ムカゴニンジン 130	8～10月
ヒツジグサ 105	6～9月	ワレモコウ 131	9～10月
ヒメミクリ 106	6～8月	アキノキリンソウ 132	9～10月
ホザキノミミカキグサ 84	6～10月	オケラ 133	9～10月
モウセンゴケ 78	6～8月	キセルアザミ 134	9～10月
アブラガヤ 107	7～11月	サイヨウシャジン 135	9～10月
カモノハシ 108	7～11月	スイラン 136	9～10月
キキョウ 109	7～9月	イヌセンブリ 137	10月
ヌマトラノオ 110	7～8月	センブリ 138	10～11月
ノギラン 111	6～8月	フユノハナワラビ 139	10～11月
ヒメオトギリ 112	7～8月	リンドウ 140	10～11月
アリノトウグサ 113	7～9月	キッコウハグマ 141	10～11月

# カキラン

柿蘭

— *Epipactis thunbergii*

ラン科 カキラン属 (多年草)

6月、サギソウ湿地・上こい岩湿地  
で開花を観察することができます。  
和名は、花色が柿の実の色(柿色)  
に似ることに由来しています。



Y.K

茎の高さは30～70cm程度  
花は数個から十数個付き下から上へと開花



5月下旬頃の草姿  
葉の基部は茎を抱くように付く



K.T

しんべん  
唇弁の紅紫色が目立つ

# 龍泉寺のトンボ

龍泉寺で観察できる時期の順番に並べています

シオヤトンボ 152	4～6月	クロイトトンボ 174	6～9月
オグマサナエ 153	5月	セスジイトトンボ 175	6～9月
タベサナエ 154	5月	アオモンイトトンボ 176	6～9月
フタスジサナエ 155	5月	チョウトンボ 177	7～8月
アオサナエ 156	5～6月	ハグロトンボ 178	7～8月
ヤマサナエ 157	5～6月	オニヤンマ 179	7～8月
ヨツボシトンボ 158	5月	ヤブヤンマ 180	7～8月
クロスジギンヤンマ 159	5～6月	タイワンウチワヤンマ 181	7～8月
サラサヤンマ 160	5～6月	ウスバキトンボ 182	7～9月
ムカシヤンマ 161	5～6月	ハネビロエゾトンボ 183	8～9月
アサヒナカワトンボ 162	5～6月	オオルリボシヤンマ 184	8～9月
ハラビロトンボ 163	5～6月	カトリヤンマ 185	8～10月
ハッチョウトンボ 144	6～7月	ナツアカネ 186	8～11月
コシアキトンボ 164	6～8月	リスアカネ 187	9～10月
ショウジョウトンボ 165	6～8月	ネキトンボ 188	9～10月
オオシオカラトンボ 166	6～8月	マユタテアカネ 189	9～10月
シオカラトンボ 167	6～9月	ヒメアカネ 190	9～11月
ウチワヤンマ 168	6～7月	アオイトトンボ 191	9～10月
コオニヤンマ 169	6～8月	キトンボ 192	10～11月
ギンヤンマ 170	6～9月	コノシメトンボ 193	10～11月
オオヤマトンボ 171	6～8月	アキアカネ 194	10～11月
モノサシトンボ 172	6～7月	オオアオイトトンボ 195	10～11月
キイトトンボ 173	6～8月		

## (凡例)

出現月 

3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----

龍泉寺で通常出現する時期

龍泉寺で希まれに出現の可能性がある時期

龍泉寺での出現個体数：評価（非常に多い、多い、多くない、少ない、まれ）

龍泉寺での出現個体数を5段階で評価している。

「少ない」「まれ」と表示されたトンボは、通常出現時期に運が良ければ観察できる。

# ハッチョウトンボに 魅せられて

— *Nannophya pygmaea*

トンボ科 ハッチョウトンボ属

環境省：なし 岡山県：準絶滅危惧

日本で一番小さいトンボです。  
行動範囲が狭く、湿地外に飛んでいくことはあまりありません。カメラを向けても飛び去ることはほとんどありません。こうした習性がハッチョウトンボの人気  
の秘密です。成熟すると雄は全身真っ赤で、雌は虎縞模様とらしまもようになります。



暑さ対策で逆立ちするハッチョウトンボ



朝6時頃、撮影  
夜露に濡れて、陽が当たれば綺麗

出現月 

3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----

龍泉寺での個体数：多い 全長：19mm 前後

## 龍泉寺のチョウ

## アゲハチョウ科

アオスジアゲハ 204  
 アゲハ 203  
 カラスアゲハ 200  
 キアゲハ 204  
 クロアゲハ 201  
 ジャコウアゲハ 205  
 モンキアゲハ 202

## シロチョウ科

キタキチョウ 208  
 スジグロシロチョウ 209  
 ツマグロキチョウ 210  
 モンキチョウ 208  
 モンシロチョウ 209

## タテハチョウ科

アカタテハ 217  
 アサマイチモンジ 221  
 イシガケチョウ 222  
 ウラギンヒョウモン 213  
 キタテハ 215  
 クロコノマチョウ 223  
 クロヒカゲ 224  
 コジャノメ 226  
 ゴマダラチョウ 220  
 コミスジ 221  
 サカハチチョウ 219  
 サトキマダラヒカゲ 223  
 ジャノメチョウ 225  
 ツマグロヒョウモン 211  
 テングチョウ 227  
 ヒオドシチョウ 216  
 ヒカゲチョウ 224  
 ヒメアカタテハ 218  
 ヒメウラナミジャノメ 225  
 ヒメジャノメ 226  
 ホシミスジ 222  
 ミドリヒョウモン 214  
 メスグロヒョウモン 212  
 ルリタテハ 220

## シジミチョウ科

アカシジミ 229  
 ウラギンシジミ 228  
 ウラナミシジミ 230  
 ゴイシジミ 233  
 コツバメ 232  
 ツバメシジミ 231  
 トラフシジミ 232  
 ベニシジミ 229  
 ムラサキシジミ 228  
 ムラサキツバメ 227  
 ヤマトシジミ 231  
 ルリシジミ 230

## セセリチョウ科

イチモンジセセリ 235  
 オオチャバネセセリ 234  
 キマダラセセリ 235  
 コチャバネセセリ 236  
 ダイミョウセセリ 236  
 チャバネセセリ 234  
 ホソバセセリ 233



# カラスアゲハ

— *Papilio dehaanii*

アゲハチョウ科

食餌<sup>1</sup>：サンショウ、ミカン類など。

4月下旬～8月にかけて年2回発生。軽快に飛行し、蜜を求めてツツジなど各種の花に訪れます。雄は吸水性が強く、御灌本殿下の湿った場所で吸水<sup>さなぎ</sup>している場面に出会うことがあります。蛹で越冬。



山門周辺のツツジに訪花



お滝下流のモミジの葉上で休息

1 幼虫の食物を表す言葉として、食草・食樹・食餌・host plants(寄生植物)などが使用されます。撮影しましたチョウの多くは、幼虫時に草の葉・木の葉を食しますが、アブラムシなどの昆虫を食す種もありました。幼虫の食べ物の項目名称を全て包含する食餌で表記し、その幼虫の食べ物を具体的に記載しました

## 龍泉寺の昆虫 (トンボ・チョウ以外)

## セミ類

アブラゼミ 240  
クマゼミ 241  
ニイニイゼミ 242  
ハルゼミ 240  
ヒグラシ 242

## 甲虫類

アオマダラタマムシ 245  
ウバタマムシ 245  
オオゾウムシ 249  
キイロカミキリモドキ 249  
ゴマダラカミキリ 248  
シロスジカミキリ 248  
セマダラコガネ 247  
ナナホシテントウ 246  
ナミテントウ 246  
ナミハンミョウ 243  
ニワハンミョウ 243  
ノコギリカミキリ 247  
ヒメツチハンミョウ 244  
マイマイカブリ 244  
マメコガネ 246

## ハチ類

アオスジハナバチ 257  
イヨヒメバチ 257  
エントツドロバチ 256  
オオスズメバチ 255  
オオセイボウ 253  
オオフタオビドロバチ 256  
オオモンククロクモバチ 257  
キアシナガバチ 255  
キボシアシナガバチ 256  
キムネクマバチ 254

キンケハラナガツチバチ 250  
クロアナバチ 257  
クロマルハナバチ 257  
コアシナガバチ 256  
コマルハナバチ 257  
ジガバチ 251  
スジボソフトハナバチ 254  
スズバチ 256

ダイミョウキマダラハナバチ 257  
ナミルリモンハナバチ 252  
ハラアカハキリバチヤドリ 256  
ベッコウクモバチ 257  
ミカドトックリバチ 251  
ヤノトガリハナバチ 256  
ヤマトアシナガバチ 256  
ルリチュウレンジ 256

## ハエ類

アオメアブ 258  
アシプトハナアブ 260  
アリノスアブの仲間 260  
オオハナアブ 259  
キゴシハナアブ 260  
キバラガガンボ 258  
キリウジガガンボ 258  
キンバエの仲間 261  
クチナガハリバエ 261  
コンボウナガハリバエ 261  
シオヤアブ 260  
シマハナアブ 260  
シロフアブ 260  
セスジハリバエ 261  
ツマグロキンバエ 261  
トラフムシヒキ 258

ニトベハラボソツリアブ 260  
ビロウドツリアブ 260  
ホソヒラタアブ 259  
マダラホソアシナガバエ 261  
マルボシヒラタヤドリバエ 261  
ミズアブ 260  
ヤドリバエの仲間 261  
ヨコジマオオハリバエ 261

## バッタ類

イボバッタ 265  
オンブバッタ 265  
クルマバッタ 263  
ケラ 267  
コバネヒメギス 267  
ショウリョウバッタ 264  
ツチイナゴ 263  
ツコムシ 266  
トノサマバッタ 262  
ハネナガイナゴ 264  
ヤブキリ 266

## カマキリ類

オオカマキリ 268  
ハラビロカマキリ 268

## 水生カメムシ類

アメンボ 269  
オオコイムシ 269

## その他

ナナフシモドキ 270  
ビロードハマキ 271  
ホタルガ 271  
ヤマトシリアゲ 270  
虫こぶ 272

## ハルゼミ

カメムシ目 セミ科

出現月：4～7月

体長：22～31mm程度



横枝にとまっていることが多い

主に松林（アカマツ・クロマツなど）に生息するが、その近くの樹木でも見かけることもあります。

松枯れは、ハルゼミにとっては大きなダメージとなっています。

鳴き声は聞こえても、小さいので姿を発見するのが難しいセミです。



ヒノキにとまって鳴いていた  
「ジュー・ジュー・・・」

## アブラゼミ

カメムシ目 セミ科

出現月：7～9月

体長：34～38mm程度



褐色で不透明な翅と、腹部の白い粉が特徴

龍泉寺でも多く見かけるセミです。

昼下がりの暑い時間帯でも鳴いて、夕方まで断続的に鳴き続けています。

鳴き声は、「ジー・ジリジリジリ・・・」と高低をつけて15～20秒鳴き、その後「ジジジジ・・・」と低く鳴きます。（油が煮えたぎるように鳴き？）



不透明な羽根はセミには珍しい

# 龍泉寺の動物（昆虫以外）

## 鳥類

アオサギ 288  
 アオジ 291  
 ウグイス 284  
 ウソ 291  
 エナガ 282  
 オオルリ 290  
 オシドリ 281  
 カイツブリ 278  
 カルガモ 279  
 カワセミ 280  
 カワラヒワ 290  
 キクイタダキ 291  
 キジ 290  
 キジバト 290  
 キレンジャク 289  
 コゲラ 290  
 コサメビタキ 290  
 シジュウカラ 290  
 シメ 291  
 ジョウビタキ 283  
 シロハラ 287  
 スズメ 285  
 セグロセキレイ 291

ツバメ 284  
 ツグミ 291  
 トビ 291  
 ハシブトガラス 286  
 ハシボソガラス 286  
 ヒドリガモ 288  
 ヒヨドリ 287  
 ヒレンジャク 289  
 ビンズイ 291  
 ホオジロ 285  
 ミサゴ 276  
 メジロ 290  
 モズ 291  
 ヤマガラ 290

## 両生類

アカハライモリ 297  
 ウシガエル 294  
 シュレーゲルアオガエル 295  
 ツチガエル 296  
 トノサマガエル 293  
 ニホンアカガエル 292  
 ニホンアマガエル 295  
 ニホンヒキガエル 296

## 爬虫類

アオダイショウ 301  
 クサガメ 298  
 シマヘビ 301  
 ニホンイシガメ 298  
 ニホンカナヘビ 302  
 ニホントカゲ 302  
 ニホンマムシ 299  
 ヤマカガシ 300

## 魚類・甲殻類

サワガニ 303  
 スジエビ 303  
 ドジョウ 303  
 ヌマムツ 303  
 ミナミヌマエビ 303  
 ミナミメダカ 303

## 哺乳類

コウベモグラ 305  
 ノウサギ 304  
 カヤネズミ 305

# カワセミ

翡翠

留鳥

長池を中心に龍王池・トンボ池を餌場に使っています。頭から尾まで上面は、光沢のある青色で、高速で直線的に飛びます。飛ぶ時に、ツイーッと鳴くことがあります。水に飛び込んで小魚を捕食します。



カワセミの雄



巣穴をめざして飛ぶカワセミ  
山土を採掘した壁面に巣穴を造る



カワセミの雌  
したくちばし  
雌の下嘴は赤色

## 龍泉寺の樹木

アオツヅラフジ 316	クリ 315	ネジキ 361
アオハダ 317	クロマツ 319	ネズミサシ 362
アカマツ 318	ケテイカカズラ 357	ネズミモチ 363
アカメガシワ 320	コウヤボウキ 341	ネムノキ 364
アキグミ 321	コックバネウツギ 342	ハンノキ 365
アセビ 322	コナラ 310	ヒサカキ 366
アベマキ 312	コバノガマズミ 343	ヒノキ 367
アラカシ 314	コバノミツバツツジ 344	フジ 359
イチヨウ 323	ゴンズイ 345	ボダイジュ 368
イヌザンショウ 324	ザイフリボク 346	マツグミ 369
イヌツゲ 325	サカキ 347	マルバアオダモ 370
イボタノキ 328	サルトリイバラ 348	マンリョウ 371
イロハモミジ 326	サワフタギ 349	ミツバアケビ 372
ウツギ 329	シャシャンボ 350	ミヤコイバラ 373
ウメモドキ 330	スイカズラ 351	ムベ 372
ウラジロノキ 331	スギ 352	ムラサキシキブ 374
ウリカエデ 332	ソヨゴ 353	ヤブコウジ 371
エノキ 333	タカノツメ 354	ヤブムラサキ 374
カクレミノ 334	タラノキ 355	ヤマウルシ 375
カナメモチ 335	ツクシハギ 356	ヤマザクラ 376
カマツカ 336	ツクバネウツギ 342	ヤマツツジ 377
ガンピ 337	ナツハゼ 358	ヤマナラシ 378
キリ 338	ナツフジ 359	ヤマハゼ 375
クサギ 339	ナワシログミ 321	ヤマモモ 379
クスノキ 340	ヌルデ 360	リョウブ 380

# ヌルデ

白膠木

— *Rhus javanica* var. *chinensis*

ウルシ科 ヌルデ属

落葉小高木

樹 高：5～8m

花 期：8～9月 果 期：10～11月

果 実：核果

その他：雌雄異株 **有毒物質／かぶれに注意**

## 和名の由来

幹に傷付けて浸み出す白色の樹液を採り、これを塗料として塗ったことから「塗る手」となった。漢字表記の「白膠木」は白色の樹液から当てられた。(白膠木の「膠」は、「にかわ」)

龍泉寺では、各湿地周辺や龍王池周回道沿いの林縁で見かけます。



(4月初旬頃) 芽吹き



葉は、互生する



葉は、奇数羽状複葉  
きすうろうじようふくよう



葉軸に翼があるのが特徴



えんすいかしよ  
(9月頃) 円錐花序に咲く花



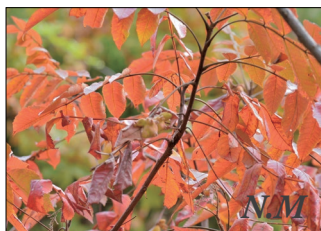
(10月中旬頃) 果実の様子



葉にダニの仲間が寄生してできた虫こぶ  
(ヌルデハイボケフシ)



葉にアブラムシの仲間が寄生してできた虫こぶ  
(ヌルデノミミフシ)



秋には紅葉して美しい